

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人東京工業大学

1 全体評価

東京工業大学は、建学以来、産業を牽引する科学・技術者を育み、我が国の基幹産業の創成と発展を担うとともに、最先端の研究成果を創出することを目指している。第3期中期目標期間においては、こうした伝統と独自の特性を重視しつつ、『出藍の学府の創造。日本の東工大から世界のTokyo Techへ』を基本方針として、教育面では、トップレベルの質の高い教育を実現して、世界に飛翔する気概と異文化を受容する柔軟性を具備し、科学技術を俯瞰できる優れた人材を輩出すること、研究面では、地球環境と人類の調和を尊重しつつ、真理の探究と革新的科学技術の創出によって地球上全ての構成員の福祉の増進に資することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「科学技術創成研究院」を設置し、基盤技術から応用技術に至る科学技術の創成を果たす研究を推進することにより、大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞するなどの成果をあげているほか、「産学連携改革タスクフォース」及び「企画戦略本部イノベーションプラットフォーム部会」を設置し、産学連携体制等の在り方について検討を行い、2030年を見越した将来計画を作成するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 全ての科目に対して100番台～600番台のナンバリングを行い、学士課程から大学院課程までの体系的なカリキュラムを構築するとともに、1年を4期に区切るクォーター制を導入し、全体の9割以上の科目をクォーター単位での実施に移行することで、学生が短期留学やインターンシップ等を組み入れた柔軟な履修計画を立てることができる環境を構築している。（ユニット「グローバル社会で活躍できる卓越した専門性とリーダーシップを備えた理工系人材育成のための教育改革」に関する取組）
- 世界最先端の新たな研究分野を開拓する柔軟な研究体制の構築を目的として、4つの研究所及び2つの研究センターと、10の研究ユニットからなる「科学技術創成研究院」を設置し、学院とも連携しながら、基盤技術から応用技術に至る科学技術の創成を果たす組織として研究を推進している。また、国立研究開発法人産業技術総合研究所と、「産総研・東工大実社会ビッグデータ活用オープンイノベーションラボラトリ」を共同で設立し、ビッグデータの産業応用を目指して、双方が所持するスーパーコンピューターを用いたビッグデータを活用するデータ処理技術の開発に係る研究を開始している。（ユニット「研究所・センター等の組織を再編するなど、『世界の研究ハブ』となるための研究体制の改革」に関する取組）

## 2 項目別評価

＜評価結果の概況＞	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載28事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

## ○ 新たな基金設立等による外部資金比率（寄附金）の上昇

基礎研究分野における若手研究者支援の推進や、研究分野の裾野拡大を目的とした「大隅良典記念基金」を設立し、積極的な広報活動を行うとともに、東工大基金においても30億円以上の寄附を獲得した結果、平成28年度における寄附金に係る外部資金比率は約9.0%（対前年度比6.4ポイント上昇）となっている。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

**○ 大学の教育・研究活動の積極的発信**

平成28年度に実施した教育改革の内容をわかりやすく発信するために、各学院・リベラルアーツ研究教育院等のウェブサイトのデザインを統一して制作・運用しているほか、大学の知名度向上を目指し、大隅良典栄誉教授のノーベル生理学・医学賞受賞に併せ、大学主導での記者会見実施や特設サイトの開設を行い、60,000アクセス以上を記録するなど積極的な情報発信を行っている。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載32事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

**○ 年度計画を著しく上回る目標の達成**

年度計画【50-3】に関して、教育研究組織の改革に伴って学長裁量スペースを1,326.5単位確保しており、年度計画に掲げる目標である「約1,000単位確保」を著しく上回っていると認められる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

### ○ サイバーセキュリティに係る教育研究の実施

野村総合研究所と組織的連携協定を締結し、サイバーセキュリティに係る共同研究を実施するとともに、大学の特色である情報・通信の理論分野を生かし、理論的背景や知識を学び、サイバー攻撃に対する実践的な防御技術を習得した人材を育成することを目的とする、「サイバーセキュリティ特別専門学修プログラム」を開設している。

### ○ 科学技術創成研究院の創設

世界最先端の新たな研究分野を開拓する柔軟な研究体制の構築を目的とした、「科学技術創成研究院」を設置している。同研究院は、4つの研究所及び2つの研究センターと、10の研究ユニットを統括し、学院とも連携しながら、基盤技術から応用技術に至る科学技術の創成を果たす組織として研究を推進しており、細胞制御工学研究ユニットのリーダーである大隅良典栄誉教授が、2016年ノーベル生理学・医学賞を受賞するなどの成果を上げている。

### ○ 産学連携機能の強化に向けた取組

科学技術を通じて産業界や地域に貢献する大学の使命を果たすために、学長の下に「産学連携改革タスクフォース」及び「企画戦略本部イノベーションプラットフォーム部会」を設置し、産学連携体制等の在り方について検討を行い、2030年を見越した将来計画を策定している。また、株式会社みらい創造機構と組織的連携協定を締結し、同機構による東京工業大学に関連する研究者・卒業生等の人材や技術を活用するベンチャー企業を支援するためのベンチャーキャピタルファンドの設立を推進している。

## 共同利用・共同研究拠点

### ○ 先端無機材料分野における異分野融合・新分野創成の推進

フロンティア材料研究所では、無機材料研究分野の将来を見据えた異分野融合・新分野創成を図るため、計算機を利用した材料設計と実際の新材料合成の実績を持つ若手研究者が自由闊達に議論できる場として「材料設計討論会」を2回実施し、ナノ・マイクロメートルの設計と大型建築構造物の設計に共通する課題・解法を見出している。

### ○ TSUBAME若手・女性利用者支援制度の創設による人材育成

学術国際情報センターでは、研究者コミュニティからの要望を踏まえ、課題として採択された場合に、1年間無償でスーパーコンピューターを利用することができる「TSUBAME若手・女性利用者支援制度」を新たに整備し、10件を採択・実施するなど、若手研究者等の積極的な利用を支援している。